

# 内集団の行動が幼児期の満足遅延に与える影響の検討

柳岡開地  
大阪教育大学 総合教育系



## 問題と目的

- ・将来の大きな報酬や目標を優先して刹那的な欲求を抑えることを**満足遅延**という
- ・「4歳の頃の満足遅延が、将来の学業成績・社会情緒的能力・健康などを予測する」という長期縦断研究の結果 (e.g., Mischel et al., 1988; Shoda et al., 1990)  
→ 満足遅延は「何を」反映しているのか？

※ 社会文脈要因として**内集団の行動**に着目した研究 (Doebel & Munakata, 2018; Munakata et al., 2020)  
→ 自分**の内集団が待つ条件** (内集団のメンバーが待ってたくさん**の報酬を得たと伝える**) が自分**の内集団が待たない条件** (内集団のメンバーが待たずに**少ない報酬を得たと伝える**) よりも遅延選択をすることが示された。

- 内集団の情報が与えるメカニズムの検討
- ①「内集団が待って3枚もらう」という教示が満足遅延を促進
  - ②「内集団がすぐに1枚もらう」という教示が満足遅延を抑制

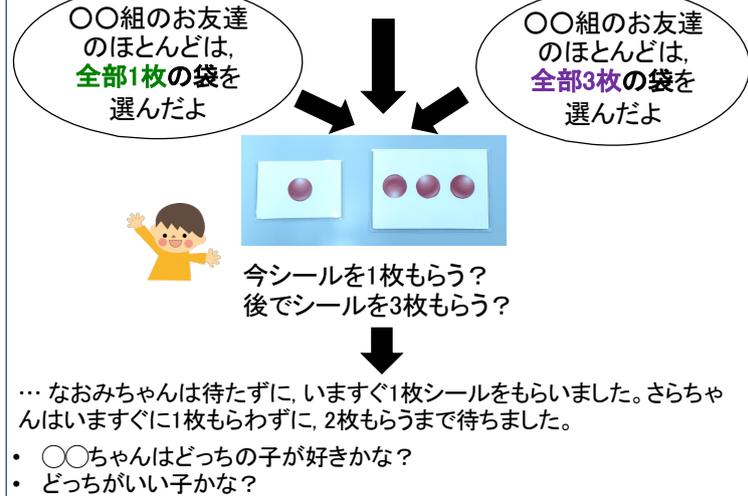
①だけ、②だけ、もしくは①と②の両方なのかを「**統制群** (内集団の情報を与えられていない群)」を設けて検討

## 方法

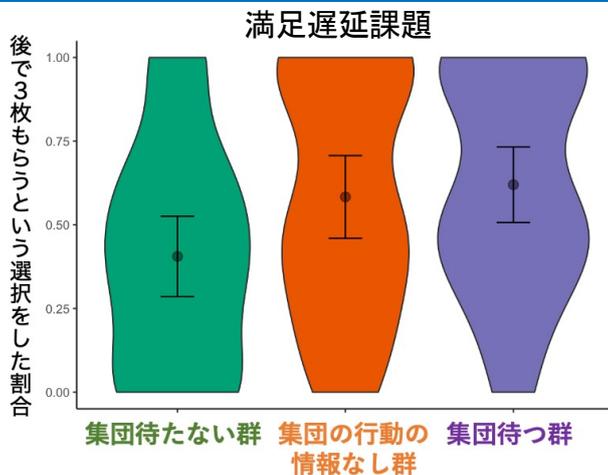
参加児: 3~6歳児を対象 (95名) (平均年齢 = 5.00歳, 標準偏差 = 0.74歳, 範囲 = 3.67-6.21歳)

課題: 満足遅延課題(6試行), 満足遅延評価質問

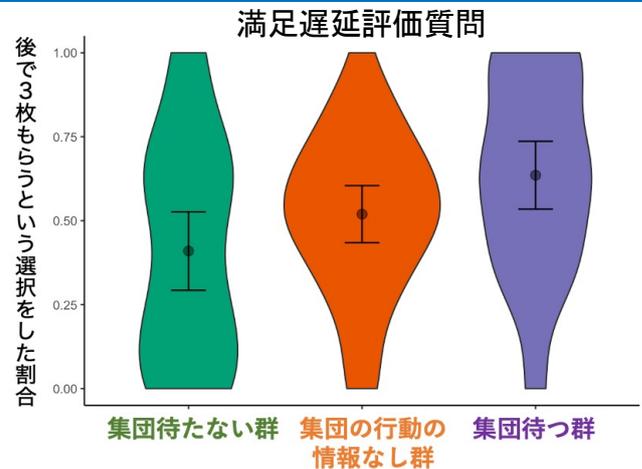
集団待たない群    集団の行動情報なし群    集団待つ群



## 結果



- ① 集団待つ群と**集団の行動情報なし群**の比較  
→ 条件操作を含まないモデルを支持 ( $BF_{10} = 0.21$ )
- ② 集団待たない群と**集団の行動情報なし群**の比較  
→ 条件操作を含んだモデルを(弱く)支持 ( $BF_{10} = 2.38$ )
- ③ 集団待つ群と**集団待たない群**の比較  
→ 条件操作を含んだモデルを支持 ( $BF_{10} = 8.13$ )



- ① 集団待つ群と**集団の行動情報なし群**の比較  
→ 条件操作を含まないモデルを支持 ( $BF_{10} = 0.39$ )
- ② 集団待たない群と**集団の行動情報なし群**の比較  
→ 条件操作を含まないモデルを支持 ( $BF_{10} = 0.37$ )
- ③ 集団待たない群と**集団待つ群**の比較  
→ 条件操作を含んだモデルを支持 ( $BF_{10} = 8.07$ )

## 考察

- ・集団の行動が満足遅延に影響を与えている可能性を確認  
→ そのメカニズムとして、**②内集団が即時報酬を選択するという情報が満足遅延を抑制する可能性を示した。** (ただし、エビデンスとしては結論づけるほど強いものではない)
- ・個人の満足遅延に関わる選好は変化していないものの、行動のみ影響を受ける場合が存在する  
→ 長期的に形成される選好のようなものは一時的な集団に関する情報では変化しない可能性